

## 『ファウスト』脚注の試み (13)

渡 辺 信 生

(1994年9月17日受理)

### HEXENKÜCHE

この場面は、コントラストの効果を前の場面よりもっと強く狙っている。冒頭は別として、Faust は完全に受け身である。彼は諸々の印象を体験し、経験し、冷たい態度を取る。そしてわけのわからぬ言葉や奇妙なしぐさ、風変わりな儀式や叫び、泣いたりわめいたりや鳴りひびく物音のうちに、彼の周囲で進行するストーリーの中へ、心ならずも客体として取り込まれる。ここではすべてがコントラストである。即ち、Faust が鏡の前に立っていることと彼の周囲の絶えざる動き、女の肉体美の体験と魔女の厨に於ける諸々の現象の味気なさ、美の永遠不変な現象と偶然によって支配されたはかない歴史的世界、Faust の感動した抒情的な言葉と、動物たちの愚にもつかぬおしゃべり、Mephisto や魔女のしゃべり続ける野卑な言葉、要するに、この場所とその住人たちの不快さと、Faust が内面的に獲得した純粋な恍惚、忘我とのコントラストである。

ゲーテがイタリア紀行の中で、1787年4月6日と9日の日付で記しているパレルモに於ける二つの体験が、ゲーテを HEXENKÜCHE の創造へと促したのかも知れない。この二つの体験は HEXENKÜCHE の中でまとめて現われているのである。4月6日にゲーテは、モンテ・ペレグリノの礼拝堂の祭壇にある一人の美しい聖者 (Rosalia) の横たわっている姿に、どれほど恍惚になり、心を奪われたかを書いている。4月9日には、パラゴニア公子の城に行く道を縁取っている壁を飾る異質の、醜く歪んだ彫像の不合理的な、味気ない寄せ集めに、極度の嫌悪感を覚えたと記している。要するに、ゲーテは4日の間に二つの同じように強いが、しかし完全に対立する矛盾した印象を受けたのである。即ち、魅惑的な女性美の印象と、味気ない無意味なもの、不快なものの印象である。これらの印象が HEXENKÜCHE の中で姿を変えて具体化されたのである。(H. Arens).

ト書き Kessel— (Hexen)kessel. (H.Arens). davon— von dem Kessel. 立ちのぼる湯気の中に現われるのは、サソリ、サラマンダー、及び同じようなものが考えられよう。(Heffner). Meerkatze— langgeschwänzte affenart, als eine über meer gekommene, fremde katze von alters her aufgefasst: die langgeschwänzten (affen) werden sehr uneigentlich meerkatzen genannt. (Grimm). 尾長猿。悪魔によってその古い愛人である魔女に召使として与えられた。彼らは中世の民間伝承と芸術に於ては、性的な放縦と欲望の象徴としてしばしば用いられている。(Heffner). schäumt— abschäumen. (v. Loeper). ihn, er— Kessel. überläuft— über|laufen. 吹きこぼれる。Meerkater— Männchen der Meerkatze. (Heyne). darneben— neben dem Kessel. 働いているのは牝の尾長猿だけで、牝と子猿

- (Junge) は火に当たっているだけである。(H. Arens). sind ... ausgeschmückt—— 状態受動。
2337. toll—— unsinnig. ばかげた, 無意味な。(Düntzer). Zauberwesen—— zauberei, zauberkunst, das zaubern, glaube an zauberei, ausübung der zauberei. (Grimm). Zauberwesen はここでは Magie とは逆に, 無意味な話による無意味なものとして表現される。(Witkowski). das tolle Zauberwesen—— Auerbachs Keller の場面を指す。見せかけやごまかしの詐欺的行為としか思われぬ低級の Zauberei や Hexerei を, Faust はもう今から軽蔑しているのである。Faust が自分の行く手から Magie を遠ざけようと望むのは, まだずっと先のことである。(Vers 11404ff.)(H. Arens).
2338. genesen—— Vers 2055—60で述べられている病からの回復。この病が取り除かれなければ, 世界旅行を楽しむことはできない。(Heffner). soll——(この状況の下では)よくなるはずはないという疑惑の気持を表わす。
2339. Wust von Raserei—— wüste Sinnlichkeit, sinnloses Durcheinander. 乱雑な無意味さ, 無意味な乱雑さ。(H. Arens). Faust は Mephisto の魔術を空虚なペテンだと思っている。(Schröer). Wust—— Wüstes Treiben. (Fischer). Raserei—— Unsinn, wie toll. Vers 2337. (Düntzer).
2340. Verlang'—— Verlange. Mephisto は確かな約束をして, Faust をこの場所に連れてきたのである。魔女の所へ行くことも隠さなかった。魔女の伝統的な観念にふさわしい老婆についての Faust の言葉がそのことを示している。(H. Arens).
2341. schafft—— fort|schaffen. 取り除く, 片づける。etwas von einem schaffen=es ihm benehmen od. fernhalten. (Fischer). Südelköcherei—— das kochen unreinlicher dinge ; pfuscherhaftes kochen. 不潔なものの料理, まずい料理。(Grimm). 以下に示されるように, この語はこの場面のそれ以上を意味する標語である。(H. Arens).
2342. Wohl—— ungefähr, etwa. およそ (30年)。dreißig Jahre—— これによって冒頭の場面の Faust は50歳台になる。(Witkowski). mir vom Leibe—— von meinem Leibe.
2344. ist ... verschwunden—— 現在完了。die Hoffnung mir—— meine Hoffnung.
- 2345—6. ein edler Geist—— man's noble intelligence. (Heffner). 高邁な人物。Balsam—— 本来の意味である樹脂と芳香油との自然な混合物ではなくて, 有益な生薬—— 魔女とは違って, 高貴な精神なら発見したかも知れない自然の Elixier (命の水) の意味であろう。(H. Arens). Hat ... ausgefunden—— 現在完了。
2347. nun sprichst du wieder klug—— Faust の最後の問を指す。何かが起こる前に, 尊大な拒否, 軽蔑, 早まった絶望といった典型的な Faust 的態度が, Mephisto をいらいらさせるのである。前にも同じような機会が幾つかあった。即ち, Faust の呪いの繰り言のあとの Vers 1335—6, 文書による契約に対する Faust の長広舌のあとの Vers 1734—5, Faust が自分の自我を人類の自我へと拡大することによって, 自分の意志を確認したあとの Vers 1785—1802。(H. Arens).
2348. Dich zu verjüngen, ... —— Es gibt auch ein natürlich(es) Mittel, dich zu

- verjüngen. verjüngen— jung machen. (Eischer).
- 2349—50. es— 前行の ein natürlich Mittel. 次行の ist の主語。es steht in einem andern Buch— 魔女の本には書かれていない, 全く別の本に, 奇妙な章に書いてある…全く当たり前のことを, 特別なこととして推奨するのは Mephisto らしいやり方である。(H. Arens). bildlich wie „auf einem andern Blatt“ (別の問題); doch vgl. auch 1. Mose 3. 17ff. (Reclam).
2351. es— ein natürlich Mittel. Ein Mittel— (Es ist) ein Mittel. Alexandriner. (Schröer).
- 2351—2. Ein Mittel, ohne Geld... zu haben=Ein Mittel, das man ohne Geld... haben kann. (H. Arens).
- 2351—61. この個所と同じ所が第2部の第1幕にある。若返るために Faust が楽に利用できる秘薬を求めるように (Vers 2345—6), 皇帝は楽に富を手に入れるために, 地下に埋蔵された財宝を掘り出すように Mephisto に要求する (Vers 5037—8). 両方に於て祝福に満ちた農夫の仕事を助言するのは, 皮肉にも Mephisto なのである。(H. Arens).
2353. Begib dich— du に対する命令法。sich begeben. 純粹に自然な生活や労働が, Faust のような55歳の研究室の学者を, (外見上も) 若返らせることはできないのは自明のことである。(H. Arens). Mephisto の助言通りに, 自然の単純な生活を生きた人物は, 第2部の Philemon と Baucis である。(Heffner).
2354. Fang an— du に対する命令法。anfangen.
2355. Erhalte— du に対する命令法。
2357. Ernähre dich— du に対する命令法。sich ernähren. ungemischter Speise — einfache Naturprodukte. (E. Schmidt).
2358. Leb, acht— とともに du に対する命令法。acht es nicht für Raub— Sieh es nicht als unangemessen an, Verschmähe es nicht. それを不当なことと思うな。それをさげすむな。格言風の表現であるが, ピリピ人への手紙, 2章6節の誤用。: ob er (Christus) wohl in göttlicher Gestalt war, nahm er's nicht als einen Raub, Gott gleich zu sein, sondern... (キリストは神のかたちであられたが, 神と等しくあることを固守すべき事とは思わず...)
- 本来の意は: betrachtete es nicht als gute Beute, die er (Christus) festhalten müßte. Raub=Beute. (R. Petsch). Raub=unrecht, gering, unangemessen. (Reclam). es— 次行の zu 不定句を受ける。
2359. Den Acker, den— Den Acker, dessen Frucht. (Fischer).
2360. glaub— du に対する命令法。glaube (mir). 私の言うことを信じなさい。
2361. Auf achtzig Jahr— Bis zum achtzigsten Jahr. (Trunz). dich zu verjüngen— dich jung zu erhalten. (Erler). この zu 不定句は前行の das beste Mittel の附加語。
2362. Das— 指示代名詞。Akk. Mephisto のすすめる農夫の生活。sich beguemen — sich entschließen. (Fischer). sich zu et. bereit finden, verstehen. (G. Wb.). いずれも次行が補足語。Alexandriner. (Schröer).

2364. steht . . . an—— an|stehen = zu jm. passen, jm. gemäß sein. (G. Wb.).
- 2362—4. Faust はいつものように生真面目に答える。Mephisto から真面目な提案を受けたかのように。若返って、華やかな、偉大な生活をするには、狭い場所に隠れねばならないのか、青春が必要なのは狭い場所のためではない、などと皮肉な反駁すらしようとしな。 (H. Arens).
2365. So denn—— そういうわけで、それでは。doch—— やはり。muß . . . dran—— dran|müssen=sich ans Werk machen müssen の省略形。 (G. Wb.). 仕事に取りかからねばならない。
2366. denn—— 一体。just—— eben, gerade. (Fischer). Warum denn just das alte Weib (ist das)! 感嘆符は疑問よりも意外、不信の意を示す。
- 2366—77. 恐らく1790年以後に書き加えられた。 (Schröer).
2368. Das—— 指示代名詞。自分でその飲み物をつくること。wäre—— Konjunktiv II. 現在の仮定。Wenn ich den Trank selber braute, の結論部。schön—— 皮肉の意。それは結構な (ひどい) 気晴しでしょうよ。
2369. wollt'—— wollte. Konjunktiv II. = Ich würde . . . bauen. wohl—— 推量の意。Brücke—— Teufelsbrücke. 悪魔は人間の魂を捕えるときには橋をかけると民衆は考えていた。Teufelsbrücke はいくつも知られている。 (Schröer).
- 2370—1. Nicht . . . allein—— Nicht allein. bei dem Werk sein—— für diese Arbeit sein. will—— braucht, muß.
2372. Ein stiller Geist—— ある物静かな人。霊である必要はない。Jahre lang—— Akk. 何年も。geschäftig—— eifrig tätig. (Fischer).
2373. kräftig—— kraftvoll wirkend. (Fischer).
2374. alles, was dazu gehört—— それに要する一切。dazu—— 前行の die feine Gärung を指す。
2375. Es—— 前行の alles.
2376. sie's—— sie es. sie は die Hexe. es は Zaubertrank の作り方。次行の es も同じ。zwar—— 次行の Allein と呼応する。現在完了。
2377. Mephisto は—— Faust も同じだが—— 忍耐も時間もなく、非創造的である。闇の中へ追放された Mephisto は (Vers 1783), 言わば否定的永遠を楽しんでいる。彼は時間性に屈することはないので、老いることなく老いている (Vers 6817)。Zaubertrank をつくるには時間を必要とするが、Mephisto は時間の外にいたので、自分でつくることはできない。 (H. Arens). 悪魔は絶対に破壊的の靈故何物も製造することはできない。 (青木)。
2378. Sieh—— du に対する命令法。welch ein zierliches Geschlecht (ist das)!  
ここから最初の Intermezzo が始まる。魔女の召使は猿である。ルターによれば、すべての猿は悪魔の被造物であり、更にまた人間の Karikatur なので、Mephisto は彼らに好意を抱くのである。ゲーテが猿 (Affe) という名前の出てこない Meerkatze, Kater, Kätzin を選んだのは、Affe によって、「人間に似た存在」という連想が入ってくるのを避けたかったからであろう。 (H. Arens).
2380. Es—— 非人称。平叙文の形をした疑問文。

- 2381-3. 不協和音の Au=Reime は Vers 2465 ff. と同じ。(Schmidt). Zum Schornstein——煙突から。迷信では煙突は悪魔や魔女に好まれる通路。(Endres). = (Sie ist) beim Schmause, aus dem Haus zum Schornstein hinaus(geflogen)!
2384. pflegen, et. zu tun. sie——Hexe. schwärmen——sich herumtreiben. (Fischer).
2385. lang——前行の lange に合わせたもの。(Lesarten). Solange, So lang' の版もある。(v. Loeper). uns die Pfoten——unsere Pfoten.  
この返事は返事になっていない。全く論理的な実情の逆である。下男と下女は、女主人が留守の間だけ、消えないように番をしていなければならない火のそばで、何もしないで快適であり得るということである。(H. Arens).
2387. So abgeschmackt, als ich nur jemand sah!——(Sie sind) so abgeschmackt, wie ich bisher keinen sah! abgeschmackt——sinnlos od. unsinnig. (Fischer). geschmacklos, thöricht. (Heyse). jemand は Fragment では etwas になっている。Vers 2440, 2610では夫々:So etwas findet sich auf Erden? So etwas hab' ich nie gesehen. jemand は第3版(1817)の誤植に基づく。(Düntzer).
- 2388-9. dieser da——dieser Diskurs da. 今 Mephisto が猿たちと交した会話。der, den——指示代名詞の名詞的用法(=der Diskurs)と、それを先行詞とする関係代名詞。Mephisto が一番好きなのは、半ばばかげた、半ば低俗なジョークの談話なのである。Diskurs: franz. discours, Gespräch. (Königs). 論理を逆にした会話が悪魔の無上の喜びなのである。(Trendelenburg).
2390. So——それでは。sagt——ihr に対する命令法。„verflucht“ は極めてこころよいことに対する低俗な表現として用いられる。例えば: verfluchter Kerl=sehr aktiver und erfolgreicher Mensch. (Endres). Puppe——grimmig scherzende Anrede. (Fischer). verfluchte Puppen——Ausdruck teuflisch humoristischer Zärtlichkeit. (Schröer).
- 2390-3. 1808年版で書き加えられた。(K. Alt). すでにある SiebとTopf についての質問 (Vers 2416, 2422) と、この書き加えられた第三の質問 (Vers 2391) は、Mephisto の実際の関心を示すものではなく、彼が完全に世間知らずで、部下の境遇や仕事についての理解のなさを示すものである。従ってこの Intermezzo の中では、Mephisto は純粋な端役として、自分の本性に一致しないことをして見せねばならない。(H. Arens).
2391. quirlt... herum——herum|quirlen. ぐるぐるかき回す。
- 2392-3. breit——verdünnt, wässrig. (Königs). weitschweifig. (Fischer). Bettelsuppen——貧しい人々のための薄い水っぽいスープ。ここでは内容のない同時代の娯楽文学とその読者に対する皮肉な当てこすり。この Verse 2390-2393は、恐らくシラーとの共同作業の時代に出来たもので、„Xenien“ のテーマの範囲に属すると思われる。Vgl. (Goethes Brief an Schiller vom 26. 7. 1797. (Erler).  
のちの Walpusgismacht に於てしばしば現われて、文学の枠を逸脱しているように見える、文学と時代に対する諷刺が、ここで初めて顔を出している。(Schröer).  
Wir kochen breite Bettelsuppen=Wir sind mit Herstellung weitschweifiger

saft-und kraftloser Literaturerzeugnisse beschäftigt. (Fischer).

以上のように Bettelsuppen が、当時の文学の状況に対する諷刺であるとする見解に対して、H. Arens はフランス革命の諷刺と見る意見を展開している。内容のない、薄められた Bettelsuppen が „Literatursatire“ であるのなら、そのような無害な文学の粥が吹きこぼれたとき、粥の作り手さえおびやかすような、危険な焰が立ち昇ることは決してあり得ない。…理性と秩序を破壊する魔女の力に奉仕している猿たちは——魔女の力そのものもまた一切を解消する悪魔の力的手中にある被造物の一つに過ぎない——第3階級（市民階級）の代表者であり、第3階級の声を表現している。Mephisto と尾長猿との、主人と下男との、ルイ16世と臣下たちとの全会話の上に、モットーとして次の言葉をかかげ得るであろう： „フランスは我々に一つの例を与えた。我々は模倣することを望まぬ。しかしこの例に注意し、肝に銘じよ！” (Zur I. Epistel). (H. Arens).

2393. Da—— Dann. Publikum—— Lesewelt, Zuhörer, Zuschauerkreis. (Fischer).

2393+ macht sich herbei—— sich herbei|machen. = sich heran|machen. こちらに来る。

2394—2401. Vers 2395, 2396 は再び論理的帰結が逆になっている。普通は gewinnen のあと reich になる。さいころの目は偶然が決めるので、さいころを振って勝たして欲しいという要求も矛盾している。これは動物の代表 Etat (国家) が、平等に基づいて国王に自分を金持にして欲しい、と無理な要求をしているのである。さいころの偶然が勝負に影響しないというのは、丁重なフィクションにすぎない。なぜなら、第3階級が国王に財産の一部を譲って欲しいと要求しているのだから。媚びながら提出する要求の理由づけは、「私の状態は悪い。私は貧しい。もしあなたのようにお金があれば、私は vernünftig (bei Sinnen) になれるでしょうに。」ということで、これは、「今は違います。もし今後もこんな状態が続くと、あなたは私が vernünftig に、即ち、従順に振舞うことを期待できませんよ。」ということなのである。

この要求には返事がないままである。主人はただ貧しい者が（ここでは Affe）、さいころを振りたがっていることを理解するだけで、「富くじで賭けるチャンスでもまだあれば、奴はどんなに合わせと思うことだろう！」と発言するのである。しかし賭けるのにも金がある。その金はない。従って支配階級の最も高貴な代表者は、再び „vernünftig“ になり、暴動を起こさないように、貧しい者を経済的に救わねばならない、という結論を出すのではなく、富くじを思いっくだけなのである。こうしてこの明白な要求は、空間に残されたままになるのである。(H. Arens).

2394—6. würfle, mache, laß—— du に対する命令法。nur—— さあ、どうぞ。

2397. ist's—— ist es. es は非人称。bestellt—— beschaffen sein, wie bestellt, so bestellt, wol oder übel bestellt. ある状態にある。(Grimm). Mit der Geldbörse des Katers ist's schlecht bestellt. 牡猿の財布の状態は良くない。(Trendelenburg).

2398. Wär' ich bei Geld—— Wenn ich bei Geld wäre. = Wenn ich Geld hätte. wäre—— Konjunktiv II. 現在の仮定。次行の wär' も同じ。

2399. So wär' ich bei Sinnen—— Dunkel; vielleicht „so käme ich zu Verstand“ in

dem Sinne, daß der Besitz Verstand gibt. (Witkowski). Als Reicher würde ich auch für klug gelten. (Reclam).

Geld は—— これは猿の論理に止まらない—— Verstand の代りになる。6 匹の馬の力を買うことのできる金持は、6 人の賢明な人間の分別を利用することができる。Vgl. Vers 1824. (Trendelenburg).

2400. würde... schätzen—— Konjunktiv II. 結論部の würde+不定詞。

2401. Könnt' er... setzen!—— Wenn er... setzen könnte! Konjunktiv II. 現在の仮定。er—— der Affe. ins Lotto setzen—— (Geld) ins Lotto setzen. Lotto —— it.=Zahlenspiel ; Glücksspiel. (Fischer).—— イタリア的形式の富くじ。18 世紀にドイツにやってきた。(Trunz).

2401+ haben... gespielt—— 現在完了。rollen... hervor—— hervor|rollen. t. 前へ転がし出す。sie—— die große Kugel.

2402—15. 子猿たちは „Dialog“ の間に、大きな球をもて遊んでいて、それを前面に転がしてくる。しかし Mephisto はこの大きな球のことを尋ねはしない。この球は今後の芝居に必要な小道具なのである。父猿は経験者として、この球を指差しながら、極めて幼稚な言葉で教訓的な説明をする。父猿は自分や自分の仲間が、現実を見ている通りに演じて見せることによって、Vers 2454—5, 2458—60 の告白の説明をしているのである。この球は上ったり、下ったりは全然しないが、転がっている間に上下が逆になる。また空っぽで簡単にこわれる材料で出来ている。父猿は自分が生きていだけで十分だが、子猿たちはこの世界から手を放さねばならない。世界がこわれると、彼らもかけらの下に葬られるだろうから。„mein lieber Sohn“ を „die jungen Meer-kätzchen“ の中の一匹とするなら、ここは以上の解釈になるかも知れない。

しかしこの話しかけを、Mephisto に対する年取って賢いと思われる父猿の、如才ない教訓的な訓辞として理解するなら、Vers 2410—15 は次のような意味になる。即ち、私、つまり民衆は生きています。言わば不滅である。しかし高貴な世界、即ち、支配層は没落するだろう。あなたも、あなた方も。先ほど媚びながら、最高の主人に要求して、今はその主人を脅かしさえている収入の少ない Schreiberling (三文文士) は、この地上の世界について語っているのではなくて、狭い意味に於ける世界、つまり指導的立場にある上流社会のことを、目下の所はまだ指導している第 1 階級のことを言っているということは明らかである。この第 1 階級は不断の変化の中であって (或いは革命に際して) (Vers 2403), 彼 (Schreiberling) と同様に弱くて (Vers 2406, 2414—5) 没落するだろう。——彼が (Schreiberling) 先頭に立っている王と共に、民衆の願望と要求に同意する気はないというまさにその理由から。

ゲーテがこの Intermezzo の中で、第 3 階級の近視眼的な、精神的に物足りない小物の代弁者を、王と同様に諷刺していることは明らかである。前者を彼らの話の浅薄さ、脈絡のなさ、安っぽい、或いはまやかしの象徴などによって、後者を好意的な態度にも拘らず、民衆に対するそのグロテスクな無理解によって諷刺しているのである。(H. Arens).

2403. Sie—— die Kugel. Vers 2405, 2408 の sie も同じ。

2405—6. „Glück und Gras, wie leicht bricht das!“ というドイツの格言による。

- (Endres).
2406. das—— die Kugel. 感嘆文。
2407. Ist hohl—— (Sie) ist hohl.
2409. Und hier noch mehr—— Und hier (glänzt sie) noch mehr.
2412. Halt—— du に対する命令法。davon—— von der Kugel. 最後に fern を補う。  
sich von et. fern|halten.
2413. Du—— 2 行上の Mein lieber Sohn.
2414. Sie—— die Kugel. von—— 材料を示す。
2415. Es gibt—— entstehen, geschehen. (Heyse). 最後に wenn sie zerbricht を補う。
- 2416—21. Mephisto は猿たちの勿体ぶったおしゃべりから、一言も取り上げることなく、突然また話を変えて Sieb のことを尋ねる。知らないで聞くのではなく、特定の発言を引き出すために聞くのである。この Verse の意味は、今までの解釈の枠内で直ちに明らかになる。„我々から盗み、我々を貧しくする者は誰か？ (Vers 2397), (無数の税金や使用料, 夫役などによって)。その男が分かるか？ そこにその男が立っている——その男の名前を公然と言う必要はない。“ (H. Arens).
2416. Was soll...?—— Was soll das Sieb (bedeuten)? das Sieb—— 篩。広く用いられていた魔術の道具。篩をすかして見るのではなく、魔術師が霊を篩の中に呼び入れて、実際に罪を犯した容疑者の名前を呼ぶと、その霊が篩を振動させた。無実の容疑者の場合には篩は動かない。篩が動くのは、篩を持っている人物の主観的判断によるのは勿論である。(Endres).
2417. holt... herunter—— herunter|holen. Wärest du ein Dieb—— Wenn du ein Dieb wär(e)st. Konjunktiv II. 現在の仮定。du—— Mephisto.
2418. Wollt'—— Wollte. Konjunktiv II. dich—— Mephisto. erkennen—— aufdecken, entdecken, entlarven. 暴露する, 見破る。(Goethe Wb.). = Würde ich dich gleich erkennen.
- 2418+ sie—— Kätzin.
2419. Sieh—— du に対する命令法。秘密を暴くための篩の使い方をまねたもの。(Petsch).
2420. Erkennst du den Dieb—— Wenn du den Dieb erkennst. Dieb—— Mephisto. Faust の魂を奪おうと思っているので。(Königs). Dieb のあとに Fragezeichen の版もある。(Düntzer).
2421. Und darfst ihn—— Und darfst (du) ihn. darfst—— brauchst. (名前を言う) 必要はない。(H. Arens). ihn—— den Dieb. nennen のあとに Punkt の版もある。(Düntzer).
2422. Und dieser Topf?—— Und (was soll) dieser Topf (bedeuten)? Topf—— tieferes Gefäß aus Ton od. Metall. (Fischer).
2423. Tropf—— einfältiger (unentwickelter) Mensch. (Fischer). Der alberne Tropf (bist du)!
- 2424f. Er—— Mephisto. Topf と Kessel はここでは同一物。(Schröer). Mephisto の



- 不案内は、ここで2回馬鹿にされて確認される。„Topf“ の代わりに „Kessel“ が登場する違いだけである。これによって „Hexenkessel“ への明白な指摘がなされている。この „Hexenkessel“ の中には、すぐあとで示されるように、致命的な結果を招くものが、混合され、かき混ぜられて、煮えたぎっている。(H. Arens).
2426. Unhöfliches Tier!— Unhöfliche Tiere (seid ihr)! 高貴な主人は、猿たちの厚かましい態度に対して、おだやかに叱る言葉しか言わない。自分の質問にも固執しない。(H. Arens).
2427. Den Wedel nimm hier— Nimm den Wedel hier. nimm— du に対する命令法。<nehmen. Mephisto は王として王座に坐り, Fliegenwedel を王笏として手に取る。王冠はまだない。(Trendelenburg).
2428. setz' dich— du に対する命令法。sich setzen. in = in den. ゲーテの場合しばしば用いられる短縮形。(Fischer).
- 2427—8. ここには支配者として、王位に就けられる者が誰もいないというのではない。王位の所有者が、正当な地位へ象徴的に就けられるのである。それまで完全に不案内な Mephisto に、今や望みとしては紛れもない実物教育をするために。Mephisto— Affen— Spiel が黙々として進行している間に、反対の世界が現れる。(H. Arens).
- 2428+ Er— Kater. diese Zeit über— この間じゅうずっと。Spiegel— Zauber-spiegel. ihm— Spiegel. bald... bald. gestanden, genähert, entfernt— hat で夫々現在完了。
2429. Was sehe ich?— Was ist das? ein himmlisch— ein himmlisch(es). himmlisch— dem Himmel angehörend. (Fischer). Bild— Florenz の Tizian の絵か, Dresden の Giorgione の絵。(Reclam).
2431. O Liebe— 英訳では O Love. leihe— Liebe に対する命令法。次行の führe も同じ。den schnellsten (Flügel) deiner Flügel.
2432. ihr— der Schönen. (v. Loeper). in ihr Gefild— ins Gefild(e) der Schönen. Gefild は Bild との押韻のため。
2434. es = nah zu gehen.
2435. sie— ein himmlisch Bild = die Schönen. als wie— (als) wie. Faust がこの美しい Zauberbild に近づこうとすると、それは霧に包まれるようにして、彼の眼前で消える。それはちょうど Faust が呪文で呼び出した Helena をつかまえると、彼女の姿がかすんで、„Dunst“ の中へ消えてしまうのと同じである。Vgl. 6560—3. (H. Arens).
2436. Das schönste Bild... — Das schönste Bild von einem Weibe (ist das)!
2437. Ist's— Ist es. es は後半の das Weib ist so schön を指す。so— in diesem Grade, in solchem Maße. Weib— 一般的な意味。鏡の中の女ではない。(Trendelenburg). Faust は長い学者生活を過ごすうちに、女のことは全く考えないようになってしまっていたのである。それで今びっくりして、„女というものは“ こんなにも美しくあり得るのか、と言うのである。(Endres).
- 2438—9. Muß ich... sehen— (天の神髓を) 見せられようとは。hingestreckt— Vgl. Vers 10048. Auf sonnbeglänzten Pfählen herrlich hingestreckt. (H. Arens).

2439. allen Himmeln——旧約聖書では、Himmel は常に plural. schāmajim. ラビの説によれば、Glückseligkeit の高まる段階に応じて7天があった。(H. Arens).
2440. Faust は今まで見過ごしてきた地上の完全性と美を、鏡の中の女性像に見る。そしてもう一つの感覚による „認識“ への衝動が彼の胸の中で動き出す。それは最初の全体への認識衝動とは異なっているが、根本に於ては同じものである。地霊の場に於ける Faust の感動的な、圧倒的な体験が、Wagner の登場で終るように、ここでも Faust の感動は、魔女の帰宅によって妨げられる。(H. Arens).
- 2441—2. 1 Mos. 1, 31 : „Und Gott sah an alles, was er gemacht hatte, und siehe da, es war sehr gut“ を、聖書に詳しい Mephisto が、彼流に解釈したもの。悪意とユーモアの点で、これを上回るものはほとんどあるまい。(Trendelenburg). wenn——英訳では if, when. 2行下の Da と呼応する。ein Gott——神という奴が。(軽んずる気持を込めて不定冠詞をつけた)。  
erst——最初に、初めに。sechs Tage——Akk. Bravo sagt——神自ら最後に Bravo と言う、ということは、創造の際には人間はいなかったので、Moses が神の創造の報告を受けたとされていることから、Mephisto が陰険にも推論したもの。(Königs).
2443. Da muß es was Gescheites werden——das Weib gilt als Krone der Schöpfung. (Königs). es——形式上の主語。was Gescheites が真の主語。形容詞の名詞的用法。gescheit——anschlägig, klug. (Fischer).
2444. sieh——du に対する命令法。sich satt sehen——見あきる。immer——命令よりも許可の方がより多く表現される場合に、命令法に用いられる。(Grimm). 好きなだけ。
2445. Schätzchen——Geliebte, Liebchen. (Fischer). zu tun wissen. Mephisto が犠牲にしようとするすでに決めていた Gretchen への最初の暗示。(Endres).  
Mephisto はここで、Faust が見ているものは美の神髄ではなくて、かろうじて美しい女性にすぎないこと、また Faust の所有欲を、見たものに対する唯一可能な反応と見なしていること、を示している。そして Faust にそのような美しいサンプルを妻として世話しようと申し出る。(H. Arens).
2446. Und selig, wer... — Und derjenige ist selig, der...
2447. この Vers は das gute Schicksal の附加語。sie——2行上の so ein Schätzchen.  
2447+ fährt fort——fort|fahren
- 2448—9. Mephisto 自身王位への関係を樹立して、Wedel を Zepter と見なす。自分を実際に王であると思うには、王冠が必要なだけである。彼自身自分の役割を認めることによって、観客に次に起こることへのシグナルが与えられる。(H. Arens).
2448. sitz'——sitze. Throne——Sessel のこと。
2449. halt'——halte. es——非人称。nur noch——しかない。die Krone —— Nominativ. Alexandriner.
- 2449+ Die Tiere——Meerkater, Meerkätzin und Meerkätzchen. bisher——猿たちが Mephisto に Wedel を手渡してから。(H. Arens). gemacht haben——現在完了。mit großem Geschrei——これは外見上の無意味さを一層強調するものである。

なぜならこの意味は前よりあからさまに分かるからである。それで猿たちは „王冠“ を持ち出す。それはすでにひび割れているが、その他はまだくっついている。王の権力の低下は、今までに示された成り行きの当然の結果である。国の経済的な苦境をコントロールして、封建制度を解体し、民衆の要求を熟慮した改革によってかなえてやることは、王にはできないということが、王の権力と名声を次第に落して行った。… „大革命は常に上層階級の、特に自らの課題をもはや果たすことができない政府の、拒絶の結果と責任である“ というゲーテの根本的な見方が、 „Die natürliche Tochter“ の中に分かり易く現われている。(H. Arens).

2450—2. sei—— du に対する命令法。=O sei doch so gut, und leime die Krone mit Schweiß und mit Blut! 王冠をくっつけるのは王自身しかできない。それも王自身の „汗と血“ で。即ち、王個人の最後の努力と総力を挙げてである。勿論臣民の „汗と血“ ではない。なぜなら臣民自身には、王冠をくっつけるのは不可能だから。むしろ事件の方がすでに、彼らの不器用さが王冠を割ってしまうほど先に進んでしまったのである。(H. Arens).

2452+ Sie—— Die Tiere. mit et. um|gehen. welchen—— 関係代名詞。先行詞は zwei Stücke. 王冠が真っ二つに割れるというのは、王はその権力を、臣民の代表者と分かち合わねばならない、ということへの指摘である。また王冠の片割れを夫々持って、猿たちが子供のように飛び回るといのは、自分たちが引き起こしたことが分からないということである。(H. Arens).

2453. Nun ist es geschehn!—— とうとうやったぞ! 王冠が割れたことを言う。es —— 非人称。現在完了。

2454. Wir reden und sehn—— 本来は wir sehen und reden. (Düntzer).

2454—64. 諷刺は突然文学上の諷刺に飛び移る。猿たちは模倣する小さな詩人である。そしてせいぜい幸運が幸いしたとき、自分たちの詩句で思想を表明することもある。彼らは重要でない詩人たちが、たいてい否定しようと努めていることを、公然と言うのである。(Witkowski).

2455. reimen—— 詩作すること。ゲーテにあっては、嘲笑的なひびきを持つことがある。例えば reimen und reden は, „singen und sagen“ の手本にならってはいるが、ただ平凡なことを強調しているだけである。(Fischer). reimen のあとに版によって Gedankenstrich, Ausrufungszeichen, Semikolon, Punkt がついている。(v. Loeper).

2456. schier—— beinahe, fast. = 殆んど気が狂いそうだ。

2457. Nun——jetzt, langsam, allmählich. mir... der Kopf—— mein Kopf. an|fangen, (et.) zu tun. 外見では Mephisto の発言は、猿たちのおしゃべりに関連している。(このおしゃべりは、富くじ、世間、篩に対する先のおしゃべりほど混乱させはしない。また Mephisto の頭がぐらぐらする理由もない) 実際には Mephisto の発言は、王冠が割れたあとの政治的アレゴリーの枠内で、今や王の生命に対する危険さもあること、しかし少なくとも第3階級(市民階級)と、その代弁者に対する王の態度が、ルイ16世の特徴だったように、(従順さと自己主張との間で)絶えず動揺していることを意味しているのである。外ならぬこの不決断の政策が、王の威信を失わせた。

- 王が無為によって自ら没落した様子が、ここで確実に演じられている。(H. Arens).
2358. es glückt ihm—— うまく行く。es は非人称。
2459. sich schicken—— sich fügen, sich zu fragen, besonders mit dem nebensinne des glücklichen zusammentreffens, der erwünschten wendung u. s. w. (Grimm).  
es schickt sich—— 事が都合よくはこぶ。es は非人称。
2460. es—— 形式上の主語。思想になる。思想が現われる。よくあることだが、ゲーテは猿たちの下手な詩の中にも、やはり思想があるということを密かに暗示している。これによって Mephisto が猿たちを、„正直な詩人“ と見なしていることが確認される。(Vers 2464)。他方うまく行ったら内容のない詩も、何らかの状況に適合する思想を示すことがあるという、猿たちの発言の中に、当時の軽薄な文学に対する、ゲーテの軽い当てこすりも恐らくあるだろう。(Endres).
2461. mir—— 自分では押さえられない、どうにもならない気持ちを表わす。
2462. Entfernen wir uns...!—— wir に対する要求。Konjunktiv I. = Laß uns... entfernen! Mephisto の最後の言葉で (Vers 2463—4), 第1 Intermezzo が終る。支配者が民衆に対して、どのように振舞い、どんな成果があったのか、即ち、支配者がそれをどのように間違ってやったのか、ということを目の前で演じた Mephisto の役割も終る。最後の Abschnitt に対して書き留めておきたいことは、ここでも „reimen“ や „Poeten“ という単語のために、どのような種類の文学に対してなされているのかよく考えても見ずに、文学に対する諷刺と受け取られたということである。そうしたことは私には全く不可能に思われる。(H. Arens).
2463. Nun—— まあ (少くとも)。bekennen—— 次行が補足語。
2464. es—— Tiere.